



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年1月30日

上場会社名 JSR株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4185 URL http://www.jsr.co.jp
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 小柴 満信
 問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 桑島 信彦 TEL 03(6218)3517
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向け）

(百万円未満四捨五入)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|-------------|---------|------|--------|-------|--------|-------|----------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 29年3月期第3四半期 | 280,374 | △4.8 | 20,995 | △28.8 | 24,997 | △10.4 | 22,378 | 13.2 |
| 28年3月期第3四半期 | 294,478 | △3.7 | 29,466 | △3.0 | 27,888 | △15.6 | 19,774 | △14.0 |

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 19,497百万円 (54.0%) 28年3月期第3四半期 12,657百万円 (△62.6%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年3月期第3四半期 | 99.85 | 99.56 |
| 28年3月期第3四半期 | 86.78 | 86.54 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|---------|---------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 29年3月期第3四半期 | 562,371 | 362,907 | 62.1 | 1,569.53 |
| 28年3月期 | 516,359 | 362,353 | 68.4 | 1,565.45 |

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 349,204百万円 28年3月期 353,144百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 28年3月期 | — | 25.00 | — | 25.00 | 50.00 |
| 29年3月期 | — | 25.00 | — | | |
| 29年3月期（予想） | | | | 25.00 | 50.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|---------|------|--------|-------|--------|-------|---------------------|-------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 367,000 | △5.1 | 26,000 | △24.4 | 28,000 | △16.7 | 21,000 | △12.7 | 93.41 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

詳細は添付資料P.4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：有

③ 会計上の見積りの変更：有

④ 修正再表示：無

詳細は添付資料P.4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

| | | | |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 29年3月期3Q | 226,074,545株 | 28年3月期 | 226,074,545株 |
| 29年3月期3Q | 3,585,547株 | 28年3月期 | 488,223株 |
| 29年3月期3Q | 224,114,526株 | 28年3月期3Q | 227,873,664株 |

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（決算補足説明資料の入手方法について）

平成29年1月30日（月）に、決算説明資料を当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 | 4 |
| (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 4 |
| (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (セグメント情報等) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日）の概況

当社グループの主要な需要業界におきましては、自動車や自動車タイヤの需要は、グローバルでは中国などで堅調な一方、国内は低調に推移しました。また、半導体市場は比較的堅調であった他、フラットパネル・ディスプレイ市場も、前年度後半以降の需要低迷から回復しました。一方で、足元では円安方向に転じているものの、今期途中まで円高が進行いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、石油化学系事業では、技術的に優位性を持つ製品のグローバルな拡販に注力いたしました。多角化事業では、半導体材料において最先端技術に対応した製品の拡販を、ディスプレイ材料において高成長が期待される中国市場での拡販を進めました。また、石油化学系事業・ファイン事業に続く第3の柱であるライフサイエンス事業も拡大いたしました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は2,803億74百万円（前年同期比4.8%減）、営業利益209億95百万円（同28.8%減）、経常利益は為替差損の減少や投資事業組合運用益の発生等により249億97百万円（同10.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は減損損失の減少や投資有価証券売却益の発生等により223億78百万円（同13.2%増）となりました。

（単位：百万円）

| 区分 | 前第3四半期 連結累計期間 | | 当第3四半期 連結累計期間 | | 増減 | |
|----------------------|------------------|--------|------------------|--------|---------|--------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 比率 |
| 売上高 | | | | | | |
| エラストマー事業 | 135,247 | 45.9% | 131,290 | 46.8% | △3,958 | △2.9% |
| 合成樹脂事業 | 40,610 | 13.8% | 33,439 | 11.9% | △7,172 | △17.7% |
| 多角化事業 | 118,620 | 40.3% | 115,646 | 41.3% | △2,975 | △2.5% |
| 合計 | 294,478 | 100.0% | 280,374 | 100.0% | △14,105 | △4.8% |
| 国内売上高 | 130,535 | 44.3% | 126,502 | 45.1% | △4,034 | △3.1% |
| 海外売上高 | 163,943 | 55.7% | 153,872 | 54.9% | △10,071 | △6.1% |
| 区分 | 前第3四半期 連結累計期間 | | 当第3四半期 連結累計期間 | | 増減 | |
| | 金額 | 売上高比 | 金額 | 売上高比 | 金額 | 比率 |
| 営業利益 | 29,466 | 10.0% | 20,995 | 7.5% | △8,472 | △28.8% |
| 経常利益 | 27,888 | 9.5% | 24,997 | 8.9% | △2,892 | △10.4% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 19,774 | 6.7% | 22,378 | 8.0% | 2,604 | 13.2% |

(部門別の概況)

(エラストマー事業部門)

合成ゴムの販売につきましては、販売数量はタイの合弁会社JSR BST Elastomer Co., Ltd. (JBE) での溶液重合SBR(SSBR) の本格稼働による拡販が寄与したことなどにより、前年同期を上回りました。売上高は、原料価格低下に伴う製品価格の低下の影響が大きく、前年同期を下回りました。

営業利益は、原料価格下落によるコストの低下はあったものの、販売価格も低下して採算が悪化し、前年同期を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のエラストマー事業部門の売上高は前年同期比2.9%減の1,312億90百万円、営業利益は前年同期比30.7%減の47億39百万円となりました。

(合成樹脂事業部門)

合成樹脂の販売につきましては、国内向け、海外向け共に前年同期並みを維持し数量は微増となりました。売上高は、原料価格低下に伴う製品価格の低下と円高の影響により前年同期を下回りました。

営業利益は、原料価格下落によるコストの低下はあったものの、販売価格も低下して採算が悪化し、前年同期を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の合成樹脂事業部門の売上高は前年同期比17.7%減の334億39百万円、営業利益は前年同期比32.4%減の27億22百万円となりました。

(多角化事業部門)

多角化事業の販売につきましては、ライフサイエンス事業は、株式会社医学生物学研究所の連結子会社化やKBI Biopharma, Inc. の売上増加により、売上高は大幅に伸長しました。一方、ファイン事業である半導体材料、ディスプレイ材料の販売につきましては、ともに円高の影響を受けました。加えて、ディスプレイ材料では競争激化の影響を受けたことにより、ファイン事業の売上高が減少し、多角化事業全体の売上高も前年を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の多角化事業部門の売上高は前年同期比2.5%減の1,156億46百万円、営業利益は前年同期比27.3%減の135億34百万円となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年10月24日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

従来、当社及び一部の連結子会社は、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法について、定率法（ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法）を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

当社は、中期経営計画に基づく事業のグローバル展開を積極的に進めておりますが、本年度以降、海外における生産・販売拠点の新設、生産能力の増強等、海外投資が本格化いたします。このような資源配分の変化を契機に、当社グループの減価償却方法について再検討した結果、定額法に統一することが適切であると判断するに至りました。当社グループの有形固定資産は、生産設備の技術的な確立及び製品の開発を経て、総じて長期安定的な使用が可能であり、経済的実態の点からより定額法が適合していること、また定額法への統一が当社グループ会社間のコスト比較、ひいては資源配分の意思決定に寄与すると同時に、グローバル展開している多国籍企業との業績比較も容易になる等、当社のグローバル化の推進に資すると考えられるためです。

この変更により、従来の方によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ2,242百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 52,081 | 87,229 |
| 受取手形及び売掛金 (純額) | 77,878 | 92,685 |
| 有価証券 | 60,010 | 42,000 |
| たな卸資産 | 77,458 | 77,553 |
| その他 | 33,104 | 36,359 |
| 流動資産合計 | 300,532 | 335,827 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 112,693 | 129,973 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 9,788 | 8,531 |
| その他 | 6,875 | 8,343 |
| 無形固定資産合計 | 16,663 | 16,874 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 67,877 | 61,785 |
| その他 | 18,592 | 17,912 |
| 投資その他の資産合計 | 86,470 | 79,697 |
| 固定資産合計 | 215,827 | 226,544 |
| 資産合計 | 516,359 | 562,371 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 53,836 | 73,162 |
| 短期借入金 | 20,840 | 20,955 |
| その他 | 34,646 | 43,776 |
| 流動負債合計 | 109,322 | 137,894 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 22,249 | 38,460 |
| 退職給付に係る負債 | 15,180 | 15,232 |
| その他 | 7,254 | 7,878 |
| 固定負債合計 | 44,683 | 61,570 |
| 負債合計 | 154,005 | 199,463 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 23,320 | 23,320 |
| 資本剰余金 | 25,179 | 17,469 |
| 利益剰余金 | 281,877 | 292,835 |
| 自己株式 | △956 | △5,434 |
| 株主資本合計 | 329,420 | 328,191 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 15,231 | 16,481 |
| 為替換算調整勘定 | 9,307 | 4,774 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △814 | △241 |
| その他の包括利益累計額合計 | 23,724 | 21,013 |
| 新株予約権 | 930 | 928 |
| 非支配株主持分 | 8,278 | 12,776 |
| 純資産合計 | 362,353 | 362,907 |
| 負債純資産合計 | 516,359 | 562,371 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 294,478 | 280,374 |
| 売上原価 | 211,786 | 197,603 |
| 売上総利益 | 82,692 | 82,771 |
| 販売費及び一般管理費 | 53,226 | 61,777 |
| 営業利益 | 29,466 | 20,995 |
| 営業外収益 | | |
| 為替差益 | - | 1,583 |
| 投資事業組合運用益 | - | 1,181 |
| その他 | 2,925 | 2,963 |
| 営業外収益合計 | 2,925 | 5,727 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 386 | 441 |
| 為替差損 | 2,664 | - |
| その他 | 1,453 | 1,285 |
| 営業外費用合計 | 4,503 | 1,725 |
| 経常利益 | 27,888 | 24,997 |
| 特別利益 | | |
| 段階取得に係る差益 | 1,757 | - |
| 投資有価証券売却益 | - | 1,811 |
| 事業譲渡益 | - | 758 |
| その他 | - | 630 |
| 特別利益合計 | 1,757 | 3,199 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 5,975 | - |
| その他 | 593 | - |
| 特別損失合計 | 6,569 | - |
| 税金等調整前四半期純利益 | 23,076 | 28,196 |
| 法人税等 | 5,062 | 6,118 |
| 四半期純利益 | 18,014 | 22,078 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △1,759 | △300 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 19,774 | 22,378 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 四半期純利益 | 18,014 | 22,078 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △1,729 | 1,227 |
| 為替換算調整勘定 | △2,011 | △2,248 |
| 退職給付に係る調整額 | △111 | 569 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | △1,504 | △2,129 |
| その他の包括利益合計 | △5,357 | △2,581 |
| 四半期包括利益 | 12,657 | 19,497 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 14,705 | 20,191 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △2,048 | △694 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|--------------|--------|---------|---------|--------|-----------------------|
| | エラストマー 事業 | 合成樹脂事業 | 多角化事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 135,247 | 40,610 | 118,620 | 294,478 | - | 294,478 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 3,040 | - | - | 3,040 | △3,040 | - |
| 計 | 138,288 | 40,610 | 118,620 | 297,519 | △3,040 | 294,478 |
| セグメント利益(営業利益) | 6,834 | 4,026 | 18,605 | 29,466 | - | 29,466 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「多角化事業」において5,975百万円の減損損失を計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|--------------|--------|---------|---------|--------|-----------------------|
| | エラストマー 事業 | 合成樹脂事業 | 多角化事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 131,290 | 33,439 | 115,646 | 280,374 | - | 280,374 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 2,930 | - | - | 2,930 | △2,930 | - |
| 計 | 134,220 | 33,439 | 115,646 | 283,304 | △2,930 | 280,374 |
| セグメント利益(営業利益) | 4,739 | 2,722 | 13,534 | 20,995 | - | 20,995 |

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）に記載のとおり、従来、当社及び一部の連結子会社は、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法について、定率法（ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法）を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、「エラストマー事業」で1,125百万円、「合成樹脂事業」で159百万円、「多角化事業」で958百万円増加しております。